

沖縄語宜野座村惣慶方言の代名詞・指示詞・ 疑問詞

ファン・デル・ルベ, ハイス / van der Lubbe, Gijs

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

44

(開始ページ / Start Page)

15

(終了ページ / End Page)

34

(発行年 / Year)

2020-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00024286>

沖縄語宜野座村惣慶方言の代名詞・指示詞・疑問詞

ハイス・ファン＝デル＝ルベ¹

はじめに

本稿では、沖縄語宜野座村惣慶方言の代名詞・指示詞・疑問詞の体系を記述する。

1. 対象言語

惣慶方言は、北琉球諸語に属する言語である。惣慶は、宜野座村に属する集落である。惣慶方言の先行研究としては、屋比久浩（1962）が音韻体系の記述をし、屋比久浩（1964）が形容詞の記述をし、ファン＝デル＝ルベ（2019）が名詞の格を記述している。

沖縄語諸方言の中で惣慶方言の音韻的な特徴としては、次の3つが代表的であると考えられる。

- ① 沖縄語首里方言などにおける/t/は、語頭において/s/に対応する。例：「鳥」tui→sui
- ② 破擦音/tʃ/や/dʒ/は、惣慶方言に少なく、ほとんど他集落からの借用語にしか見られない。首里方言の/tʃ/は、語頭において/s/や/ʃ/とに対応し、語中において/t/に対応する。例：「来る」tʃu:N→suN、「包丁」ho:tʃa:→hoʔta。/dʒ/は、語頭においても語中においても/d/に対応する。例：「門」dʒo:→doʔ、「泳ぐ」?wi:dʒuN→wiʔduN。しかし、/i/の前においては、歯茎破擦音/t/や/d/が口蓋化し、破擦音/tʃ/や/dʒ/としてあらわれる。例：「一つ」ti:tʃi→tʃiʔtu、「袖」sudi→sudʒi。
- ③ 日本語の/tsu/と/su/は、語頭において折りたたまれて/su/に対応し、語中において/tu/と/su/とに対応する。例：角→suʔnuʔ、松→maʔtu、煤→suʔsu

これらの音韻的な特徴は、普遍的でなく、例外もある。なお、沖縄語宜野座諸方言の中の惣慶方言の音韻的な特徴などに関して詳しくは、屋比久浩（1990）と屋比久浩（2006）を参考にされたい。

2. 惣慶方言の現況

現在宜野座村字惣慶では、2つの言語シフトが同時におこりつつある。1つは、伝統的なスーキクトゥバ（惣慶方言）からいわゆるカイクトゥバ（首里那覇言葉をベースとする‘沖縄語共通語’）へのシフトであり、もう1つは、広い意味での沖縄語から日本語へのシフトである。60代以上の方は、日常的に沖縄語を使用しているが、惣慶方言的な要素が相当薄くなっているため、琉球諸語の中でもっとも危機に瀕している言語の1つであると言っ

¹ Gijs van der Lubbe

てよかろう。

3. 調査方法

本稿で対象とする資料は、2018年7月から2019年6月にかけて、聞き取り調査に惣慶方言の母語話者であるYS氏（1935男性）から得られたものである。前述したとおり、この方言の話者数は、わずかである。数少ない話者にしか調査を依頼できないため、今後、追加調査がおこなえるか、疑わしい。したがって、本稿では、これまでの調査結果のみ報告することにする。調査資料に不明瞭な点が残っているが、これは今後の長期的な課題としたい。

4. 代名詞

代名詞は、日本語記述文法研究会（2010：105）の定義では、「物事を、文脈や場面に基づいて指示する名詞」である。代名詞という範疇には、人称代名詞、指示代名詞、疑問代名詞、再帰代名詞（反照代名詞）が入っている。人を指す場合は、単数と複数が対立され、琉球諸語のうち、複数において除外と包括の区別がある言語が少なくない（Shimoji 2014）。

北琉球諸語の代名詞・指示詞・疑問詞については、内間（1984）、徳永（2013）、ファン＝デル＝ルベ（2016）、下地（2018）などで概説されているが、惣慶方言の代名詞についての概説は、ない。

4.1 人称代名詞

通言語学的な観点からすると、人称代名詞は、一人称（発話場面における話し手）、二人称（聞き手）、三人称（それ以外）を指示する形式である。惣慶方言においては、三人称を指示する専用形式が存在せず、三人称対象は、コレ・ソレ・アレ相当の指示代名詞、指示連体詞+tu「人」、固有名詞であらわされる。

三人称の専用形式が存在しないことは、琉球諸語にも世界のさまざまな言語でよくみられる現象であり、Bhat（2004：134）がそのような言語のことをtwo-person languageという。

表1でしめしているように、惣慶方言の人称代名詞体系は、人稱・数・除外vs包括という変数で整理することができ、二人称のうち、非敬称vs敬称の対立があり、さらに、階級による使い分けもある。

表1 惣慶方言の人称をあらわす代名詞

		単数	複数
一人称	除外	wanu	wa·ha
	包括		aga
二人称	非敬称	ja·	i·
	敬称（平民に対して） （士族に対して）	na·mi uNdʒu	na·ha uNdʒuna·

4.2 一人称

一人称単数形は、wanu「わたし」である。古典日本語に存在するワ、ワレと系統的につながっているようであり、一人称代名詞語根wa-にnuという要素がついた形である。表2のとおりである。wa-系の一人称単数形としての使用は、北琉球中で確認されている（大西正幸2006）。

wanuは、つく助詞によって不規則な形を示す。主格助詞のgaがつく場合、wanuより、wa·という形式に拘束される。

表2 一人称単数代名詞の語形と文法的機能

	助詞	形式
主格	ga	wa·ga
属格	—	wa·
与格（相手）	gatʃi	wanugatʃi
共格	tu	wanutu
対格	—	wanu
トピック	ja	wanuja
並列	N	wanuN

表2でしめしているように、原形のwanuがさまざまな助詞がつきる語幹として機能する。助詞のgatʃi（与格）、tu（共格）、ja（トピック）、N（並列）がみなwanuにつく。

- 1) du=N wakaraN-totʃi wanu=gatʃi narasuN=tʃi aNna?
 自分も 分からないくせに、私に 教えるって あるか？

- 2) wanu=tu e·=ja so·de-nettʃi=ru au
 私と 彼は 兄弟みたいだ。

- 3) wanu=ja jimattu jo·biN
私は、 島の人 です。

単数の一人称が目的語になる場合も、wanuが用いられる。

- 4) wanu tasukitji satagutu, kwa·ji ta·girasuN
私を 助けて くれたから、 お菓子を差し上げる。

名詞述語文の述語になる単数の一人称にもwanuという形式が用いられる。

- 5) A : saru jo·-ga?
誰 であるか?
B : wanu doN=do·
私 だよ

表2でしめしているように、wa'には、助詞や名詞がつきうる語根のような機能がある。属格をあらわす場合は、wa'が単独で用いられる。

- 6) e'=ga ja'=ja wa' ja=kka mageheN
彼の 家は 私の 家より 大きい

主格助詞gaもwa'につく。

- 7) haru=ja wa'=ga ituN
畑は 私が 行く。

一人称複数においては、除外形と包括形がある。聞き手を含まない場合は、wa·ha「私たち」が用いられ、wa'に複数をあらわす接辞-haがついた形である。-haという複数をあらわす接辞は、生産性が低く、wa·ha以外に二人称複数敬称代名詞na·ha「あなた様方」にあられる。

名護市史編さん委員会（2006：417）によると、沖縄国頭村奥で用いられる複数接辞-sa:は、-kja:が口蓋化し、-tja:になり、それが弱化し、-sa:になったとのことである。惣慶方言においては、/s/が/h/になる音韻変化もみられるため、複数接辞-haは、奥方言にあるような-sa:がさらに-haになったものであると思われる。

表3 除外一人称複数代名詞の文法的機能

	助詞	wa·ha
主格	ga	wa·haga
属格	—	wa·ha
与格 (相手)	gatfi	wa·hagatfi
共格	tu	wa·hatu
対格	—	wa·ha
トピック	ja	wa·haja
並列	N	wa·haN

wa·haは、異形態がなく、助詞がつく場合、直接その形式につく。

- 8) wa·ha=tu maNdena ituna?
 私たちと 一緒に 行くか?

対格や属格の場合、wahaのはだかの形が用いられる。

- 9) wa·ha ja·=ja i· ja=kka fikahaN
 私たちの家は お前たちの家より 近い

- 10) aNma, wa·ha judana?
 お母さん、 私たちを 呼んだのか?

一人称複数で聞き手を含む場合、wa·haが用いられず、agaが用いられる。一人称非単数において包括専用の形式があることは、琉球列島中に見られるが、その形式には、多様性があるようである。沖縄語諸方言において見られる包括専用には、aga-やiga-という要素が入っている形式が多いようである。

久米島謝名堂方言： agita:/agata:

勝連平敷屋方言： igadu

読谷楚辺方言： Ngata:

本部瀬底方言： agaN²

² 内間直仁1984: 8

今帰仁与那嶺方言： aga:mi³

惣慶方言におけるagaは、ta:やduやmiなどのような形態素がついていないことが特徴的である。

表4 包括一人称複数代名詞の文法的機能

	助詞	aga
主格	ga	agaga
属格	—	aga
与格（相手）	gatji	agagatji
共格	tu	agatu
対格	—	aga
トピック	ja	agaja
並列	N	agaN

次の用例は、agaの使用を示している。

- 11) aga=ga nama sukatonu kutuba=ja
私たちが 今 使っている 言葉は、
tu·jimattu=nu=ja wakaranu hadu=do·
よその集落の人には 分からないはずだよ

³ 仲宗根政善1983：5

4.3 二人称

二人称で同輩や目下をあらわすには、二人称代名詞jaが用いられる。

表5 二人称非敬称単数形の文法的機能

	助詞	ja系
主格	ga	ja·ga
属格	—	ja·
与格（相手）	gatʃi	ja·gatʃi
共格	tu	ja·tu
対格	—	ja·
トピック	ja	ja·ja
並列	N	jaN

属格と対格の場合、jaのはだかの形が用いられる。

12) ja juda-mu, nuga nu=N aniraN-ga?
お前を 呼んだが、なんで 何も 言わないのか？

13) kwi=ja ja irena=ru jo·na?
これは お前の 鎌なのか？

jaは、取り立て助詞N「も」がつく場合、半長音/a·が短母音/aになる。

14) ata ja=N su·na?
明日 お前も 来るか？

15) ta·tu muto-gutu, tʃi·tu ja=gatʃi sasu-sa
二つ 持っているから 一つを お前に やるわ。

複数の目下に対して用いる二人称代名詞は、iである。iは、複数をあらわす形態素を持たない形式であり、同系の形式は、久志・辺野古、本部、今帰仁の一部でも見られる（名護市史編さん委員会2006：419）。

表6 二人称複数代名詞の文法的機能

	助詞	i'
主格	ga	i'ga
属格	—	i'
与格 (相手)	gatfi	i'gatfi
共格	tu	i'tu
対格	—	i'
トピック	ja	i'ja
並列	N	iN

並列をあらわす助詞Nがつくと、i'の調音が短くなり、iNになる。これは、惣慶方言が音素配列法上、調音とNの組み合わせが許されないためである。

惣慶方言では、二人称敬称としてna'miが用いられる。na-系二人称は、与論と徳之島を除いて北琉球諸島であまねく見られる二人称敬称である。沖縄とその離島では、'百姓敬語'として知られており、士族が用いる二人称敬称uNdzuと対立している。

表7 二人称敬称単数形na'miの文法的機能

	助詞	na'mi
主格	ga	na'miga
属格	ga	na'miga
与格 (相手)	gatfi :	na'migatfi
共格	tu	na'mitu
対格	—	na'mi
トピック	ja	na'mija
並列	N	na'miN

namiには、語形変化せずに助詞がつく。

- 16) na'mi=ja da=ttfi mo'ru-ga?
 あなた様は、どこへ いらっしゃるのですか？
- 17) maruke'tfi na'mi=tu itatfi widukehe'bitaN
 久しぶりに あなた様と 会って 楽しかったです。

na·miにおける属格は、gaによってあらわせる。

- 18) na·mi=ga irena du·jo·ga?
 あなた様の 釜は、 どれなのか？

na-系二人称代名詞の複数形は、na·haである。wa·ha「私たち」と同様に複数であらわす形態素-haが入っている。

表8 二人称敬称複数形na·haの文法的機能

	助詞	na·ha
主格	ga	na·haga
属格	—	na·ha
与格 (相手)	gatji	na·hagatji
共格	tu	na·hatu
対格	—	na·ha
トピック	ja	na·haja
並列	N	na·haN

nahaは、語形変化せずにあらゆる助詞がつく。

- 19) na·ha=ja da·ka mo·ta-ga?
 あなた様方は どこからいらっしゃったのか？

- 20) kunu kwa·ji=ja na·ha=gatji ta·girasuN
 このお菓子は あなた様方に 差し上げる。

沖縄語における土族語彙とされる二人称敬称代名詞uNdzu「あなた様」は、惣慶方言においても用いられるが、土族の年長者にしか用いられない。惣慶方言の敬語体系には、「百姓敬語」と「土族敬語」があり、その形式が異なる場合がある。次の用例では、Iが百姓敬語であり、IIが土族敬語であり、二人称敬語と「召し上がる」という敬語動詞が異なる。

- 21) I. na·mi=ja nu· ta·gi·do·ru-ga?
 II. uNdzu=ja nu· usagai·do·ru-ga?
 あなた様は、 なにを めしあがるのですか？

惣慶方言の音韻体系において、/u/の前に破擦音/tʃ/や/dʒ/がほとんどおこらず、uNdʒuのような/dʒu/が入っている語彙は、よそからの借用であると考えられる⁴。屋比久（1990：650）によると、18世紀の初頭の頃から首里・那覇地域の士族の人々が地方に移住し、その方言が宜野座諸方言に影響を及ぼしたとのことであり、uNdʒuの使用もその1つであると考えられる。

表9 二人称敬称単数形uNdʒuの文法的機能

	助詞	uNdʒu
主格	ga	uNdʒuga
属格	ga	uNdʒuga
与格（相手）	gatʃi	uNdʒugatʃi
共格	tu	uNdʒutu
対格	—	uNdʒu
トピック	ja	uNdʒuja
並列	N	uNdʒuN

uNdʒuの複数形がuNdʒuna'であり、複数接辞-na'は、惣慶方言においてuNdʒuのみにあらわれる。

表10 二人称敬称複数形uNdʒuna'の文法的機能

	助詞	uNdʒuna'
主格	ga	uNdʒuna'ga
属格	—	uNdʒuna'
与格（相手）	gatʃi	uNdʒuna'gatʃi
共格	tu	uNdʒuna'tu
対格	—	uNdʒuna'
トピック	ja	uNdʒuna'ja
並列	N	uNdʒuna'N

⁴ 次の例を参考にされたい。首里方言：gaNdʒu→惣慶方言：gaNdu'「元気」（頑丈）。

4.4 再帰代名詞

再帰代名詞（反照代名詞）は、主語など、その文のなかで先にあらわれた要素と同一指示であることをしめす代名詞である。惣慶方言では、琉球諸語においてあまねくみられる「どう胴」由来のdu・「自分」が再帰代名詞である（Pellard 2015 : 15）。もともとdu・は、「体」という意味である。文法化して再帰代名詞にもなったが、次の用例で示すようにまだ「体」という意味でも用いられる。

22) du·=ga tfu·sasa
体が 強いわ。

次の用例は、du・の再帰代名詞としての使用の例である。

23) du·=nu figutu=ja du=ttfi fiwa
自分の 仕事は 自分で しろ。

首里方言で見られるdu:na:「自分たち」のような、再帰代名詞の複数形式は、惣慶方言に存在せず、複数の人をあらわす場合もduが用いられる。

24) mukafi=ja muru=ga unu <do:gu>⁵ du=ttfi sokorutaN⁶
昔は、 みんなが その道具を 自分たちで作っていた。

5. 指示詞

日本語記述文法研究会（2009 : 20）の定義によると、指示表現（指示詞）は、「単独の名詞として、あるいはほかの名詞や用言を修飾するなどして指示の働きを果たす形式である」とのことである。

下地（2017 : 170）が述べたように、指示詞は、品詞でなく、機能類である。惣慶方言の指示詞は、名詞、連体詞、副詞という3つの品詞にまたがって分布する。

⁵ <do:gu>「道具」は、日本語である。

⁶ sokorutaNは、sokoruN「作る」の連用形+オッタに相当する形式であり、ここでは、過去の習慣をあらわしている。

表11 惣慶方言の指示詞体系

		近称	中称	遠称
物・人 (「これ」など)	単数	kwi·	wi·	e·
	複数 (人のみ)	ku-ne·su	u-ne·su	a-ne·su
場所 (「ここ」など)		ku-ma	ma·	a-ma
場所 (「この辺」など)		ku-Nde·	u-Nde·	a-Nde·
連体詞 (「この」など)		ku-nu	u-nu	a-nu
属性 (「このような」など)		ku-Nnetji anu	(u-Nnetji anu)	a-Nnetji anu
程度 (「このぐらい」など)		ku-ssa	u-ssa	(a-ssa)
様態 (「こう」など)		ka-ttji	a-ttji	
様態 (「こう」など)		(ka-ni)	a-ni	

表11でしめしているように、様態をあらわす指示詞のみは、二型体系であるが、それ以外は、三型体系である。指示詞は、指示語幹 (近称ku-/ka-、中称u-、遠称a-) と指示詞形成接辞からなるが、物・人をあらわす指示代名詞をはじめ、激しい音韻変化を遂げたため、その要素がほとんど見えなくなってきた指示詞もある。

惣慶方言においては、指示代名詞kwi·「これ」、wi·「それ」、e·「あれ」が三人称をあらわすのにも用いられるが、非敬称であり、三人称敬称は、指示連体詞+tu「人」によってあらわされる。指示代名詞の統合的な役割による形式は、表12のとおりである。

表12 指示代名詞kwi·、wi·、e·の文法的機能

	助詞	kwi·	wi·	e·
主格	ga	kwi·ga	wi·ga	e·ga
属格	ga	kwi·ga	wi·ga	e·ga
与格 (相手)	gatji	kwi·gatji	wi·gatji	e·gatji
共格	tu	kwi·tu	wi·tu	e·tu
対格	—	kwi·	wi·	e·
トピック	ja	kwi·ja	wi·ja	e·ja
並列	N	kwiN	wiN	eN

惣慶方言の指示代名詞には、日本語や沖縄語首里方言 (国立国語研究所1976:122) と同様、近称・中称・遠称という三項対立があるが、その場にあるものを指示する場合 (現場指示)、話し手に近いものと聞き手に近いものへの区別がなく、近称kwi·「これ」のみが用いられるようである。

25) [話し手が持っている本を話題にして]

{kwi·/×wi·}=ja wa·ga katenu sumutu joN

これは、 私が 書いた 本 だ。

26) [聞き手が持っている物を指して]

{kwi·/×wi·}=ja nu· jo·ga?

それは、 何 であるか？

聞き手と話し手の両者から離れている物を指す場合は、遠称e'「あれ」が用いられる。

27) [遠くにある家を指して]

e'=ja wa·ha ja· joN

あれは、私たちの家 だ。

文脈指示の場合は、聞き手と話し手の共有知識の場合は、近称・中称・遠称のいずれも用いられる場合があるようであり、その詳細な区別がはっきりせず、さらなる調査が必要である。現在までの調査で分かった使い分けは、つぎのとおりである。調査は、衣畑（2017：49）の調査例文を少し変えた調査票でおこなった。

<共有知識>

28) me·=ni maNdena tʃi·ritʃa kada-haga=ja

前に 一緒に チーイリチャーを食べただろう？

{kwi·/wi·/e·}=ja na· take· kamibusaN

それを もう 一回 食べたい。

聞き手のみ知っている場合は、中称か遠称が用いられるようである。その詳細な使い分けは、今後の課題とされたい。

<聞き手のみ知っている>

29) A : kiNnu <kutʃo:saN>=ga tʃakufi=tu itataN=do

昨日 区長さんの 長男と 会ったよ。

B : {wi·/e·/×kwi·}=ja itatʃi-anu kwa· jo·ta-ga?

(直訳：それ/あれは、 どんな 子 だったか?)

その子は、 どんな 子 だった？

話し手のみ知っている場合は、遠称か近称が用いられるようである。その詳細な使い分けも今後の課題とされたい。

<話し手のみ知っている>

30) imi=Ndʒi ikigawa·bi=tu itataN. {e·=ja/kwi·/×wi·}=ja kwafji kwitaN
 (直訳：夢で 男の子と 会った。あれ/これは お菓子をくれた)
 夢で 男の子と 会った。彼は、 お菓子をくれた

三人称をあらわす場合、kwi·、wi·、e·の複数形としてkune·su、une·su、ane·suが用いられる。-ne·suという要素の起源が不明である。惣慶方言にコレ・ソレ・アレ相当代名詞に複数をあらわす形態素-taがついた形式が存在しないことが特徴的である。

表13 指示代名詞kune·su、une·su、ane·suの文法的機能⁷

	助詞	kune·su	une·su	ane·su
主格	ga	kune·suga	une·suga	ane·suga
属格	ga	kune·suga	une·suga	ane·suga
与格 (相手)	gatʃi	kune·sugatʃi	une·sugatʃi	ane·sugatʃi
共格	tu	kune·sutu	une·sutu	ane·sutu
対格	—	kune·su	une·su	ane·su
トピック	ja	kune·suja	une·suja	ane·suja
並列	N	kune·suN	une·suN	ane·suN

6. 疑問詞

疑問詞疑問文は、その命題の中に不明な情報が含まれていることをあらわす疑問文であり、不明な情報を疑問詞であらわす。疑問詞は、指示詞と同様、品詞でなく、機能類であり、様々な品詞にまたがって分布する。惣慶方言の疑問詞は、表14のとおりである。

⁷ kwi·やkune·suは、非敬称であり、三人称敬称代名詞としては、単数でanutu「あの人」、複数でanututa「あの人たち」のような指示連体詞+tu「人」が用いられる。

表14 惣慶方言の疑問詞

	形式	意味
疑問代名詞 (人)	saru/sarudaru	誰/誰たち
疑問代名詞	nu·	なに
疑問場所名詞	da·	どこ
選択疑問名詞	du·	どれ、どっち
疑問詞時間名詞	i·tu	いつ
疑問程度名詞	ite·sa	どのぐらい
疑問数量名詞	itasa	いくら
疑問寸法名詞	itatuke	どれだけ
疑問寸法連体詞	itappenu	どのぐらいの
疑問数詞	ikutu	いくつ
疑問人数詞	ikute·	何人
疑問回数詞	ikuke·	何回
疑問理由詞	nuga/nuNtji	なぜ
疑問様態詞	itatji	どう、どうやって
疑問連体詞	itaNnetji anu	どんな、どのような

saru「だれ」、nu·「何」、da·「どこ」、du·「どれ」、i·tu「いつ」のような、1つの形態素からなる疑問詞があるが、疑問詞語幹に接辞がついた形式もある。ite·sa「どのぐらい」、itasa「いくら」、itatuke「どれだけ」、itappenu「どのぐらいの」は、疑問詞語幹ita-に接辞がついた形式であり、ikutu「いくつ」、ikute·「何人」、ikute·「何人」は、疑問詞語幹に助数詞がついた形式である。itatji「どう、どうやって」は、疑問詞語幹ita-に動詞suN「する」の中止形tji「して」が付いた形式である。nuga「なぜ」、nuNtji「なぜ」のような、疑問詞に助詞がついた形式もある。

惣慶方言の人をあらわす疑問代名詞saru「だれ」は、複数形をあらわす場合、重複形式sarudaru「だれたち」が用いられる。表15でその文法的機能をしめしている。

表15 疑問代名詞saru「だれ」、sarudaru「だれたち」の文法的機能

	助詞	単数形	複数形
主格	ga	sa·ga	sarudaga
属格	—	sa·	saruda
与格 (相手)	gatfi	sarugatfi	sarudarugatfi
共格	tu	sarutu	sarudarutu
対格	—	saru	sarudaru

saruには、sa-という語根があるようである。属格で用いられる場合、語根が単独でsa·として用いられる。sa·は、主格助詞gaがつく語幹としても機能する。

31) kunu jigutu=ja saru=gatfi fimita-ga?
 その 仕事は、 誰に させたのか?

32) saru judaga?
 誰を 呼んだか?

33) sa·=ga <fikai> su-ga?
 だれが 司会を するか?

疑問詞du·がもの・概念をあらわす機能 (どれ) になる。

34) kwa·fi=ja ta·tu a·mu, du·=ga ma·ha-ga?
 お菓子は 2つ あるけど、 どれが おいしいか?

疑問詞nuは、もの・概念をあらわす機能がある。

35) nu· ko·ta-ga?
 何を 買ったか?

ite·sa「どのぐらい」は、程度をあらわす疑問詞である。

36) nagu-kutuba=ja ite·sa waku-ga?
 名護言葉は、 どのぐらい 分かるか?

属性をあらわす疑問詞は、itaNnetʃi anuである。これは、方法の疑問詞接頭辞ita-+「様」をあらわす接辞ne+動詞suN「する」の中止形tʃi「して」+動詞aN「ある」の連体形anuからできた形式であると思われる。

- 37) itaNnetʃi anu kwaʃi ɸuːsa-ga?
 どのような お菓子 欲しいか?

6.1 不定語 (不定表現)

本章においては、惣慶方言の不定表現 (不定詞、不定語、indefinites, indefinite pronouns) に関して記述する。Haspelmath (1997: 2) は、さまざまな語族にわたる40言語のサンプルを検討したうえで不定表現の9つの機能を区別している。

- ① specific, known to the speaker (特定かつ話し手にとって既知): 「あなたがいなかったとき、誰かが電話したよ。誰か当ててみて！」
- ② specific, unknown to the speaker (特定かつ話し手にとって未知): 「何かが聞こえたが、何なのか分からない」
- ③ non-specific, irrealis (不特定かつ非現実): 「どこかに行きなさい」
- ④ polar question (真偽疑問 (極性疑問)): 「何かがあったのか？」
- ⑤ conditional protasis (条件節): 「何かがあったら、言ってください」
- ⑥ standard of comparison (比較基準): 「彼が誰よりも上手だ」
- ⑦ direct negation (直接否定): 「誰も分からない」
- ⑧ indirect negation (間接否定): 「今日は、誰も来ると思わない」
- ⑨ free choice (自由選択): 「誰でも分かる」

惣慶方言においては、①は、不定語であらわさないが、それ以外は、疑問詞から発生した形式であり、②、③、④、⑤は、3つの不定表現形式がある。

I. コピュラの譲歩形^{じょうほ}joːtʃiN (日本語のデアッテモに相当する形式) が疑問詞か、疑問詞が主要部になる名詞句につく。次のとおりである。

- 38) daː=nike=joːtʃiN haʃi=ga aːnu hadu
 どこかに 橋が あるはずだ。

39) e=ja wadzitoN=nettji a·mu, nu'=jo·tjiN ai=ru sutaka?
彼は、怒っているみたいだけど、何か あったのかな？

40) itatji=jotjiN saNdo·nija naraN=ja
どうにか しなければならないね。

jo·tjiNは、取り立て助詞としても機能し、日本語の「でも」に相当する。

II. コピュラの譲歩形^{じょうほ}jo·rawaN（日本語のデアラバモに相当する形式）が疑問詞か、疑問詞が主要部になる名詞句につく。次のとおりである。

41) i·tu=jo·rawaN su·tu=gatji ikefinija=ja...
いつか 月に 行けたらなあ…

42) itatji=jo·rawaN saNdo·nija naraN=ja·
どうにか しなければならないね。

III. 疑問詞か、疑問詞が主要部になる名詞句に焦点化助詞gaと-ra疑問語尾をとったコピュラjo·raがつき、これは、疑問詞+接辞という合成語の不定表現より2単語からなる不定表現である。焦点化助詞-gaが必ず語尾-raにともなう現象は、いわゆる係り結びであり、琉球諸語における係り結びに関して詳しくは、Shinzato&Serafim (2013)、狩俣&島袋 (2007)、宮良 (2007) を参考にされたい。

43) ja'=nike· waNtaN=ja. da=ttji=ga jo·ra idzi=ru wutana?
家に いなかったね。どこかに 行っていたのか？

44) kunume· ikigangwa=ga saru=ga j·ora so·tji tetamu...
この前 息子が だれかを 連れて 来ていたけど…

この3つのパターンに使い分けがあるようであるが、詳細は、今後の課題とされたい。

(Ⅲ)は、いわゆる係り結び構造である。沖縄語諸方言の多くの方言においては、首里方言における疑問詞+·gana (国立国語研究所2001)、久米島謝名堂における疑問詞+·gara、今帰仁方言における疑問詞+·ge:ra/-gara/-gana: (仲宗根1984) などのような、疑問詞+接辞からなる不定表現が多いようであるが、その接辞が焦点化助詞gaにコピュラの-ra疑問形が

融合した形式に由来すると考えられる。惣慶方言の不定表現において係り結び構造が融合せずに用いられることは、不定表現接辞ができる経路の前の段階でとまっているようである。

まとめ

本校で沖縄語宜野座惣慶方言の代名詞、指示詞、疑問詞について記述をおこない、以下の点が確認された。(1)一人称複数形には、除外wa·haと包括agaが異なる。(2)二人称敬称においては、相手が士族か平民によってna·mi (平民) かuNdzu (士族) が用いられる。(3)指示代名詞kwi·「これ」、wi·「それ」、e·「あれ」が三人称代名詞の機能を果たす。(4)現場指示においては、話し手に近いものと聞き手に近いものが両方、近称kwi·で指示される。(5)不定表現においては、係り結びが融合せずに用いられる。(6)人間をあらわす代名詞の複数形は、接辞-ha、接辞-ne·su、重複形 (sarudaru)、接辞なし (aga「私たち」、i·「あなたたち」) があり、それ以外の名詞において複数をあらわす接辞-ta·は、代名詞につかない⁸。

明らかでない点としては、指示代名詞以外の指示詞における近称、中称、遠称の使い分けがある。

参考文献

- 大西正幸 (2006) 「第3章 4節 代名詞」名護市史編さん委員会『名護市史本遍・10言語』pp. 408-427 名護市役所：名護市港
- かりまたしげひさ・島袋幸子 (2007) 「沖縄方言のとりたてのくつつきとかかりむすび：今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい (おぼえがき)」『日本東洋文化論集』(13)：pp. 1-29
- ファン・デル・ルベ、ハイス (2016) 「北琉球島島方言の代名詞」『琉球の方言』41号、pp. 25-58 法政大学沖縄文化研究所：東京
- ファン＝デル＝ルベ、ハイス (2019) 「沖縄語宜野座惣慶方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』第8号、pp. 45-56 琉球大学島嶼地域科学研究所：沖縄
- 衣畑智秀 (2017) 「宮古狩俣方言における指示詞使用の個人差」『福岡大学研究部論集A：人文科学編』17(4)、pp. 45-50
- 屋比久浩 (1964) 「Studies on the Soke Dialect (2) Derivation of Adjectives」『琉球大学文理学部紀要 人文編』第8号、pp. 117-123、沖縄
- 屋比久浩 (1990) 「第X章 宜野座の言語」宜野座村誌編集委員会『宜野座村誌』pp. 641-704 宜野座村役場：宜野座村宜野座

⁸ na·hata mu·rugade「皆様」という文句には、-haと二重的に用いられている。

- 屋比久浩 (2006) 「第2章 11節 宜野座の方言」名護市史編さん委員会『名護市史本
遍・10 言語』pp. 242-253 名護市役所：名護市港
- 下地理則 (2017) 『南琉球宮古語伊良部方言』東京：くろしお
- 国立国語研究所 (2001) 『沖縄語辞典』
- 仲宗根政善 (1983) 『沖縄今帰仁方言辞典』東京：角川書店
- 徳永晶子 (2013) 「沖永良部島国頭方言の人称代名詞」『琉球の方言』38号、pp. 179-195
法政大学沖縄文化研究所：東京
- 内間直仁 (1985) 「琉球方言文法の研究」笠間書院：東京
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法7：第12部 談話、第13部 待遇表現』
東京：くろしお出版
- Bhat, D.N.S. (2004) *Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.
- Haspelmath, Martin (1997) *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford U.P.
- Miyara, S. (2007) On the properties of Wh and focus in Okinawan. *Current Issues in the
Structure and History of Japanese*. Ed. B. Frellesvig et al., pp. 187-205. Tokyo: Kuroshio
Publishers.
- Pellard, Thomas (2015) The Linguistic Archaeology of the Ryukyu Islands. In Heinrich,
Patrick, Miyara, Shinsho, and Shimoji, Michinori, eds. *Handbook of the Ryukyuan
Languages: History, structure, and use*, 13-17. Berlin: De Gruyter Mouton.
- Shinzato, R. and L. A. Serafim (2013) *Synchrony and Diachrony of Okinawan Kakari Musubi
in Comparative Perspective with Premodern Japanese*, Leiden: Brill.
- Yabiku, Hiroshi (1962) Studies on Soke Dialect (1)『琉球大学文理学部紀要』6、pp. 343-
368、沖縄

付記

本研究に御協力くださった話者の方に心より感謝申し上げます。また、査読に際して多くの貴重な御意見を賜り、記してお礼申し上げます。